

C 21

福岡
尋常
師範
學校

文部
讀本
小學
習字
帖
高等科用
六

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 3 2 9 3 2 a

福岡教育大学蔵書

教 育 部	
教授法	欵 警 道 項
目	次
全	冊ノ内第 冊
分類 第	號
372.82	

T1A

72

F74

MADE IN JAPAN

福地源一郎著

正價金八錢

文部
讀本
小學習字帖
高等科用
六

海石村田浩藏書

凡ソ物ハ熱ヲ得レバ膨張シ熱ヲ
失ヘバ收縮ス膨張スルモノハ輕ク

収縮スルモノハ重シ輕キ物ハ上
ニ浮ビ重キ物ハ下ニ沈ム輕氣球

ノ構造未ダ今日ノ位置ニ達セザ
リシ時ニ球下ニ火ヲ焚キ其熱ヲ

以テ球内ノ空氣ヲ輕浮ナラシメ
テ昇騰セシフアリ風呂ヲ焚クニ

上面ノ水ハ下面ノ水ヨリ早ク温
マルモ右ニ同ジク底下ニ在リテ

火熱ヲ受ケタル水ノ分子膨張シ
テ輕浮トナリ上面ニ昇ルニ由ル

ナリ此仕掛ノ大ニシテ其熱ヲ太
陽ニ借ルモノ空氣ニ在リテハ風ト

云ヒ海潮ニ在リテハ洋流ト云フ
洋流古ハ黒潮ト云ヒ又黒瀨川ト

モ稱セリ古キ日本圖ハ丈島ノ
側ニ在ルモノ是ナリ

明後七日は心祝の事有之候
午後三時より親類同僚舊友等相

招き小宴を開き夜就てを近頃漸
苦勞とい存いども貴所亭主方

少て配膳其外諸事は指圖所執持
頼入當日の設けを觀世の仕舞

大倉の狂言より其他の懸念の宗
匠を頼入別席より於て懸念に用意

致とせ所持の明畫南窓に花入蘆
屋の釜古瀬戸の茶入井戸乃茶碗

等も飾り附に積りた庭前の芝生
に土俵取設もい間晴天ふ作も

来客の好ふ應じ相撲も云々催
飲先生早く不具

八月五日

安土義弘

杉山林達殿

此數葉ノ寫眞ハ英京倫敦繁華
ノ光景ヲ撮セルモノナリ先ヅ「テ」

ムス「河上ニ架セル倫敦橋ノ壯大
ナルヲ觀ヨ其河岸ニ立テル議事

堂ハ宏大ナラズヤ次ニ聖保羅寺
ノ壯嚴ナル又此府中ニ森立セル

烟突ノ多キ此街道ニ絡繹タル車
馬ノ夥シキ此河中ニ船舶ノ聚合

セル此停車場ニ汽車ノ輻輳セルヲ
見ヨ實ニ廣大無邊天下ニ比類ナ

キ盛觀ナラズ乎抑斯ル繁榮ハ何
ニヨリテ來レルカ汝等ガ宜ク講究

スベキ所ナリ

過日出立の節一可沙報申一ノモガ

名古屋の用事も片付き昨夜帰京
は今夜も往返とと汽車に乗る

寸地をも踐まぶ二百餘里の長途
を僅ふ二日して往復仕り相便

利乃世に守り相成中に殊ふ所は
天氣も宜く途中蒲郡の海濱濱

名湖の遠望、天龍大井、安徳富吉川
の長橋、原吉原より北富峰の景色

ふぐ一段の眺めふて旅窓に夢れ
一向見え不申は同室中ふ日卒鐵

道會社の機関師兩三名より入居
機関車の構造より機械の配置又

軌條の布設法など種々の講釋が
り好ましく見られしにこれに附て

此便益を其の神物を教明致されし
ワット、ステブソン、西氏の功績を

今日其利益を被る我より於て
決して忘却致さぬ教儀と云存

書餘暇晤萬之可中上侯頓首

九月二十八日

輪戶善四郎

出洞讓爾樣

侍史

豊臣秀吉ノ幼時其父之ヲ寺ニ託
シタルニ秀吉ハ僧トナルヲ嫌ヒ

濫ニ人ト争ヒ果テハ寺ヲ焚キ法
師バラヲ打殺サント嚇シテ家ニ

歸リ其後遠江ニ行キテ松下嘉平
次之綱ニ仕ヘレニ之綱ガ尾張ニ

赴キテ胴丸ノ鎧ヲ買ヒテ來レヨト
命ジテ渡シタル黄金三兩ヲ以テ

支度ヲ整ヘ木下藤吉ト名乗リテ
織田信長ニ仕ヘタリト云フ此等ノ

事ハ秀吉其人ナレバコソ兎モ角
モアレ若シ常人ニレテ之ヲ爲サバ

支度ヲ整ヘ木下藤吉ト名乗リテ
織田信長ニ仕ヘタリト云フ此等ノ

事ハ秀吉其人ナレバコソ兎モ角
モアレ若シ常人ニレテ之ヲ爲サバ

無頼ノ曲者法律ノ罪人トナリテ
終ルベシ総テ古人ノ行為ヲ見ル

モハ其當時ノ世態如何ト云フ
ヲ第一ニ觀察シ次ニ我今日ノ時

勢ト比較スベシ秀吉ノ當時ハ戰
國騷亂ノ時ナリ我明治ノ今日ハ

太平靜穩ノ日ナリ時勢既ニ同ジ
カラズ世態モ隨ヒテ大ニ異ナリ

故ニ其行為モ學ブ可キ一アリ學
ブ可カラザルコトアリ之ヲ選擇

スルヲ智者ト云ヒ否ラザルヲ愚
人ト云フナリ

拏鞋奴

拏鞋奴面如狙舍鞋執旄從風呼

掌心逆理貫中指六十六州手卷
舒馴龍玩虎有餘力却向溟海掣

鯢魚何知金甌缺且破當言得失
皆自吾嗟哉乎操持無術君無怪

鞋與天下無小大

泥者王理素を所儀この程有君の

以怨切なる所は歎病ふより初めて
前日此を覚り唯夢の醒め

する心地実な悔悟は越同人
ふても雇人を少といふこといふ

何分主従無隔の地―と其意と
ふも其意を疎むる者ふけまば

同人儀は自分のところをい附うべ
き白と名うゝはは徒しく押りい

いふ業の元来ふく家の産の歎霞
も測り難くいふも所産を以て

中途よりて取留めとある金くそと君
の真澄ふ中りに俄回人よれて一

生忘死位尊親愛之者人自過
失を犯る者少く程はほども不衆

の像ぞえんりて心忘懐なく法義
誠の程小生よりも尊厳なる者

以禮まで委細に主殿お肩こりと
りおにむす

十日三言 市多家信
於本義恭候 再拜

野人禮節を知らび唯々一片の忠
誠より存込のまゝ御従弟天野君へ

御異見申上候處早速聽納相成候
趣少く意外の洩謝詞は預り候事

返とも汗顔の至りふ御座候古
語に先善哉責むるは朋友の道也

又直言を納ふるは國家の福士に
争友のまじふ身令名と離れずるぞ

申以事共候（が）野拙の不敬ハ平
小御容捨被下度此段御序を以て

天野君（御傳）より候書餘萬縷
拜肩小讓る敬復

十月三日

鈴木義恭

本多家様

はなごの活中よりとて夜松平より
の所購おらるゝに佛國ゴブラン様

物の類一昨より多葉先生に
ふりかへしと付添一説の思ふに

明の後はあり中一と出向おそ
さるづゝは國に已祭持物館中

また最も有名なラファエル乃
牧羊の姿を肖像織立てたもの

よりして製造者も此の板の五匹
の糸目と費して成就したる由

されど僕の知る僕たるもの
と云ふ少くも遠くより望み見

いつまでも油断なく思ふれに程
乃と云ふ少くも全世界市中の

絶品と此標も堂々うらばい又同
國セーブルの陶器も兩品みそい

是は精好き此の品より甚るるは
易かりぬそ名物の標品よりなる

義學ふ執知の人とに一晩いたさせ
うぐ室めて一房の姉ふも昔見

て寝た何と右はあふ内までたぐ
うこ

十一月五日

安倍子代

墨倚廣子之風

版權所有

明治廿四年十二月廿四日出版
明治廿四年十二月廿七日登錄
明治廿五年三月廿四日訂正再版
文部省檢定濟

著者 東京府平民 福地源一郎
書者 大阪府平民 村田浩藏
發行所 東京府平民 西田傳助
印刷者 東京府平民 西田傳助

印刷 繁本良之助
製本 廣岡幸助
發賣 廣岡幸助
所賣 大泉圖書會社
大泉圖書會社
同支社

